

## 平成24年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年5月28日（月） 13時30分～15時15分
- 場 所： 京都市立病院 4階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,  
小西 哲郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 議事等

#### (1) 平成23年度業務実績概要及び平成23年度決算速報値について

(主な質疑内容)

- ・ 市立病院は、計画目標を大きく上回っており、京北病院も順調といえる。法人初年度の実績として、高く評価できる。
  - ・ 臨時損益とは、病院整備事業における除却損、医療機器の廃棄損などの特別損失のことである。今後の見通しとしては、26年度に北館の除却損を計上する予定である。加えて、経常損益は、新館の減価償却が始まるため、市立病院の26年度の目標値が低くなっている。
  - ・ 人間ドックの受診者を増やす取組として、組合補助の健診がない時期である4、5月に、自費で受診される個人向けに、受診料を割引くキャンペーンを実施した。脳ドックや肺がんドックのオプション検査も好調である。また、近隣企業の健康保険組合や市町村国民健康保険組合への営業活動も活発に行っている。目標を達成できるよう頑張っていく。

#### (2) 経営状況月次（4月分）報告

(主な質疑内容)

##### ○市立病院関連

- ・ 市立病院の収益が昨年度に比べ下がっている。これは、4、5月は人事異動の影響が大きいと考えている。診療科部長の人事異動を含め、診療科の医師の体制が遅れたことが挙げられる。

おそらく、6月にはこれらの影響もなくなり、1箇月当たり10億円、年間120億円を運営目標としていきたい。
- ・ また、診療単価がそれほど上がっていないということがある。24年4月の診療報酬改定を踏まえると、4、5月は5パーセント程度増収するものと見込んでいた。

##### ○京北病院関連

- ・ 京北病院は順調と言える。ただ、介護老人保健施設については、療養型老健の施設要件を満たすことができず、4月に施設基準の類下げがあり、介護報酬単価が1割程度下がった。できるだけ早く療養型老健の要件をクリアしたい。

##### ○その他

- ・ 節電に関しては、今のところは特に影響はないが、計画停電が実施されるとなると、

救急や手術など何らかの影響は出る。消費電力のうち、空調や電子カルテの占める割合が大きく、節電対策がしにくい状況にある。

### 3 その他報告事項

#### (1) 平成23年度診療科単位の主要管理指標と診療報酬について

(主な質疑内容)

- ・ 入院の診療単価については、市立病院の場合、一般的な規模の急性期病院と比べると、外科系の診療単価が1万円程度低い。外科，脳外科，泌尿器科などは平均で7万円を超えて当然である。
- ・ 診療単価が低い要因としては、手術数が少ないこと，特に重症患者数が少ないことが挙げられる。高度な手術を要する患者の受入体制等に課題がある。  
医療機器についても、これまで積極的な投資が不足していた。戦略的な投資が必要であり，整備事業を機にこれらを是正していく。

#### (2) 平成23年度行政区別患者数について

(主な質疑内容)

- ・ 京都市において，市立病院が担っている役割がよく見える。

### 3 閉会